

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本校は開校以来、約5200名もの卒業生を数え、県内外の優良企業へ優秀な人材を輩出してきた。コンピュータをベースとする、情報処理技術者、システムエンジニア、プログラマー、CAD等各分野のスペシャリストを養成し、その方面への就職を通して、企業との厚い信頼関係を築いてきた。

その中でも「情報処理科」は、開校時より資格取得や実践教育に力を注いできたが、その実績に加え、これまで以上に企業等と密接に連携したカリキュラム編成による教育を実行することで、より実践力のある学生を社会へと送り出すことが可能となる。

そこで本校ではIT業界における情報サービス企業・公益団体との連携を図り、企業等のニーズを十分に反映した実践的最新の知識・技術習得を目的とするカリキュラム作成のために「教育課程編成委員会」を設置し、その委員会における各委員の意見を十分に生かしながら、産業界の動向を踏まえカリキュラムを随時改善していく。

さらに、企業ニーズ把握のため県内外の就職先企業にも、随時、インタビューし、それを今後のカリキュラム編成の参考にしている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、学校長直属の委員会と位置付け、職業実践専門課程としてのカリキュラム編成、及び改善を行っていくに当たり、企業等からの意見を随時反映し、その内容を検討する機関とする。

教育課程編成委員会では、以下の事項を審議する。

1)教育課程の実施状況に関する報告と問題点や疑問点

2)問題点に関する解決策の方向性

3)産業界の動向を踏まえた新たな取り組み提案

委員会の審議結果を基に、学科長・教務部長が中心となってカリキュラムの検討・見直しを行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

| 名 前    | 所 属                    | 任期                         | 種別 |
|--------|------------------------|----------------------------|----|
| 凍田和美   | ハイパーネットワーク社会研究所 理事     | 令和6年4月1日<br>~令和8年3月31日(2年) | ①  |
| 大城英裕   | 大分大学理工学部 助教            | 令和6年4月1日<br>~令和8年3月31日(2年) | ②  |
| 後藤 雅明  | 株式会社ザイナス               | 令和6年4月1日<br>~令和8年3月31日(2年) | ③  |
| 三浦 勉   | 株式会社アーネット              | 令和6年4月1日<br>~令和8年3月31日(2年) | ③  |
| 永楽 仁八  | IVY大分高度コンピュータ専門学校 学校長  |                            | —  |
| 中島 千春  | IVY医療総合専門学校 教務部長       |                            | —  |
| 本田 文喜  | IVY大分高度コンピュータ専門学校 総務部長 |                            | —  |
| 佐藤 剛志  | IVY大分高度コンピュータ専門学校 学科長  |                            | —  |
| 丸尾 健悟  | IVY大分高度コンピュータ専門学校 副学科長 |                            | —  |
| 森崎 真由美 | IVY大分高度コンピュータ専門学校 教員   |                            | —  |
| 馬場 清   | IVY大分高度コンピュータ専門学校 教員   |                            | —  |
| 木村 宗裕  | IVY大分高度コンピュータ専門学校 教員   |                            | —  |
| 吉武 稜我  | IVY大分高度コンピュータ専門学校 教員   |                            | —  |
| 橘高 和希  | IVY大分高度コンピュータ専門学校 教員   |                            | —  |
| 片岡 敦郎  | IVY大分高度コンピュータ専門学校 教員   |                            | —  |

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                          |                                                |                      |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------|------------------------------------------------|----------------------|
| (4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期<br>(年間の開催数及び開催時期)<br>年2回 (11月、3月)<br><br>(開催日時(実績))<br>第1回 令和6年11月19日 16:00～17:30<br>第2回 令和7年3月11日 16:00～17:30                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                          |                                                |                      |
| (5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況<br>※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。<br>委員会では令和6年度の授業の実施状況、学生からの聞き取り調査の結果等の報告を行い、委員の意見をもとに新年度用カリキュラム案を提示した。委員からの反対意見はなかったが、データベースの教育方針変更の意図や、AIに関する授業のレベル・学習後どのように展開していくのか、また、卒業研究についての評価方法の質問があった。<br>回答は以下のとおり。<br>・データベースについては環境破壊による授業中断を防ぐ(学習時間を確保する)ため、Webブラウザで稼働するものを使用し、基礎を学ぶように変更した。サーバー構築についてはこれまでと同じ方法にしている。<br>・AIについては、基礎的要素を学習し、生成AIも活用するなどどちらでも実施できるエンジニアを育成したい。コードは生成してくれるので、コード以外の部分が重要。<br>・卒業研究の評価は、当校教員ではなく、研究発表を聴講していただく企業に各項目での5段階評価をしていただいている。 |                          |                                                |                      |
| 2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                          |                                                |                      |
| (1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針<br>①授業で学んだIT知識・技術を実務的な実習を通して、理解を深める。<br>②実体験を通して、社会の中での人間関係の重要性を理解する。<br>③最新技術の動向を多くの講演会などに参加して学ぶ。<br>④企業の方による直接的な実習指導で、より実務的な仕事のやり方、最新技術での開発方法を学ぶ。<br>上記4項目を実現するため、企業と連携して情報処理技術者としての資質を育成することを基本方針とする。                                                                                                                                                                                                                                                           |                          |                                                |                      |
| (2)実習・演習等における企業等との連携内容<br>※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記<br>実務経験豊富なシステムエンジニアを講師としてWebアプリ開発技術を中心に実習を通して学ぶ。実施手順については、グループ学習を中心として、スケジューリングや目標設定を行う(アクティブラーニングの手法を取り入れる)。このとき、適切になるように指導する。また、最後にグループ単位で発表を行う。発表の仕方や取り組みは担当教員が行い、「プレゼンテーションの実施内容」・「授業に対する姿勢」・「グループに対する貢献度」を、企業の講師が評価する。                                                                                                                                                                                                |                          |                                                |                      |
| (3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                          |                                                |                      |
| 科目名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 企業連携の方法                  | 科目概要                                           | 連携企業等                |
| Webアプリ開発                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当 | JAVAサブレット、JSPにてWebアプリケーション関連のプログラミング技術を実践学習する。 | LAUNCH CRAFT 合同会社    |
| 3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的にを行っていること。」関係                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                          |                                                |                      |
| (1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針<br>※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記<br>本校は、研修規定に定められているように、教員のための研修会を研修係にて企画し実行する。また、各教員は、自分の担当科目に関わらず、現在の業界最新動向に注目し、業界団体や学術機関の開催する講演会や各種研修会・セミナー等への参加を積極的に行う。また、学生指導についても、外部研修機関を通して定期的に研修を実施する。授業方法・シラバスについても、学生アンケートを実施し、適宜、見直しを実施する。これらについては、目標管理における自己啓発目標として各自が年度ごとに設定し、成果の評価を行っている。<br>研修は職場における日常業務の実践過程において、本校の基本方針に基づき、専門分野の知識習得だけでなく、学生への指導力向上にかかわる研修を計画的に実施する。                                                                             |                          |                                                |                      |
| (2)研修等の実績                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                          |                                                |                      |
| ①専攻分野における実務に関する研修等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                          |                                                |                      |
| 研修名:                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | AI時代のはたらき方とセキュリティ対策      | 連携企業等:                                         | リコージャパン株式会社          |
| 期間:                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 2024/6/13                | 対象:                                            | IVY大分高度コンピュータ専門学校教職員 |
| 内容:                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | マイクロソフトのCopilotによる実演     |                                                |                      |
| 研修名:                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | AI 社会の歩き方                | 連携企業等:                                         | ハイパーネットワーク社会研究所      |
| 期間:                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 2024/12/26               | 対象:                                            | IVY大分高度コンピュータ専門学校教職員 |
| 内容:                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 人工知能とどう付き合うか             |                                                |                      |

|                    |                                                                               |        |                      |
|--------------------|-------------------------------------------------------------------------------|--------|----------------------|
| 研修名:               | 2025年こそAI実践！活用事例から学ぶMicrosoft 365 Copilot                                     | 連携企業等: | 日本マイクロソフト&リコージャパン    |
| 期間:                | 2025/2/4                                                                      | 対象:    | IVY大分高度コンピュータ専門学校教職員 |
| 内容                 | Microsoft Copilotの現状と、実際の企業での活用事例の紹介                                          |        |                      |
| ②指導力の修得・向上のための研修等  |                                                                               |        |                      |
| 研修名:               | 専門学校におけるこれからのキャリア教育                                                           | 連携企業等: | 別府大学 教授              |
| 期間:                | 2024/10/4                                                                     | 対象:    | IVY大分高度コンピュータ専門学校教職員 |
| 内容                 | 小中高等学校でのキャリア教育の現状を踏まえて                                                        |        |                      |
| 研修名:               | STEAM教育                                                                       | 連携企業等: | 大分大学教授               |
| 期間:                | 2024/12/20                                                                    | 対象:    | IVY大分高度コンピュータ専門学校教職員 |
| 内容                 | 人はいかに学ぶのか                                                                     |        |                      |
| 研修名:               | 令和6年度 IVY特別記念講演会                                                              | 連携企業等: | クラブアンバサダー 大野均        |
| 期間:                | 2025/2/2                                                                      | 対象:    | IVY大分高度コンピュータ専門学校教職員 |
| 内容                 | 弱小チームからワールドカップで勝つまで                                                           |        |                      |
| (3)研修等の計画          |                                                                               |        |                      |
| ①専攻分野における実務に関する研修等 |                                                                               |        |                      |
| 研修名:               | プロ検セミナー 大学入学共通テスト「情報Ⅰ」と日々のプログラミング学習                                           | 連携企業等: | 株式会社プログラミング総合研究所     |
| 期間:                | 2025/3/28                                                                     | 対象:    | IVY大分高度コンピュータ専門学校教員  |
| 内容                 | ①大学入学共通テスト「情報Ⅰ」解説 ②早期からプログラミングを学ぶ理由 ③プログラミングの効率的な学習方法 ④学習のゴール設定 ⑤学習を進める上での注意点 |        |                      |
| 研修名:               | プロ検セミナー 保護者様が学ぶプログラミングの基本                                                     | 連携企業等: | 株式会社プログラミング総合研究所     |
| 期間:                | 2025/4/25                                                                     | 対象:    | IVY大分高度コンピュータ専門学校教員  |
| 内容                 | ・プログラミングとは何か・言語の種類とその特徴・プログラミングが社会や実生活でどう使われているか・現在の学習内容と将来への繋がり              |        |                      |
| 研修名:               | ゲーム制作におけるデザイン講座                                                               | 連携企業等: | 東山 朝日 氏              |
| 期間:                | 2025/11/28                                                                    | 対象:    | IVY大分高度コンピュータ専門学校教員  |
| 内容                 | [面白さ]とは                                                                       |        |                      |
| ②指導力の修得・向上のための研修等  |                                                                               |        |                      |
| 研修名:               | 高校生ICTカンファレンス                                                                 | 連携企業等: | 一般社団法人安心ネットづくり促進協議会  |
| 期間:                | 2025/7/26                                                                     | 対象:    | IVY大分高度コンピュータ専門学校教員  |
| 内容                 | 中高生が考える世代を超えたICTやAIの活用と課題解決の提案<br>～偽・誤情報等のリスクを見極め、安全で豊かな情報社会を築くために～           |        |                      |
| 研修名:               | 校内研修会                                                                         | 連携企業等: | 未定                   |
| 期間:                | 2025/12 予定                                                                    | 対象:    | IVY大分高度コンピュータ専門学校教員  |
| 内容                 | 未定                                                                            |        |                      |
| 研修名:               | 令和7年度 IVY特別記念講演会                                                              | 連携企業等: | 荒田 恭兵 氏              |
| 期間:                | 2026/1/18                                                                     | 対象:    | IVY大分高度コンピュータ専門学校教職員 |
| 内容                 | 七転び八起きのメンタルの作り方                                                               |        |                      |

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は、学校関係者として卒業生、その他、企業および学識経験者から構成される委員が参画した学校関係者評価委員会を設置して、自己評価をもとに、教育理念と目的に沿った人材育成がなされ、かつ、健全な学校運営(学生募集～教育～就職)が行われているか評価し、評価結果を教育活動その他の学校運営の改善等にかし、学校運営の客観性と透明性を高めることを目的とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの評価項目 | 学校が設定する評価項目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (1) 教育理念・目標 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の理念、目的、育成人材像は定められているか</li> <li>・学校における職業教育の特色は何か</li> <li>・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか</li> <li>・学校の理念、目的、育成人材像、特色、将来構想などが学生、保護者等に周知されているか</li> <li>・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界ニーズに向けて方向づけられているか</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| (2) 学校運営    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的に沿った運営方針が策定されているか</li> <li>・運営方針に沿った事業計画が策定されているか</li> <li>・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか</li> <li>・人事、給与に関する制度は整備されているか</li> <li>・教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか</li> <li>・教育活動に関する情報公開が適切になされているか</li> <li>・情報システム化等による業務の効率化が図られているか</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| (3) 教育活動    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか</li> <li>・教育理念、育成人材像や業界ニーズを踏まえた修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか</li> <li>・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか</li> <li>・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか</li> <li>・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか</li> <li>・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか</li> <li>・授業評価の実施・評価体制はあるか</li> <li>・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか</li> <li>・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</li> <li>・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</li> <li>・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するマネジメントが行われているか</li> <li>・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか</li> <li>・職員の能力開発のための研修等が行われているか</li> </ul> |
| (4) 学修成果    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職率の向上が図られているか</li> <li>・資格取得率の向上が図られているか</li> <li>・退学率の低減が図られているか</li> <li>・卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか</li> <li>・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| (5) 学生支援    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職率の向上が図られているか</li> <li>・資格取得率の向上が図られているか</li> <li>・退学率の低減が図られているか</li> <li>・卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか</li> <li>・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |

|               |                                                                                                                                                                                |
|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (6)教育環境       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</li> <li>・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか</li> <li>・防災に対する体制は整備されているか</li> </ul>           |
| (7)学生の受入れ募集   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集活動は、適正に行われているか</li> <li>・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか</li> <li>・学納金は妥当なものとなっているか</li> </ul>                                         |
| (8)財務         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</li> <li>・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</li> <li>・財務について会計監査が適正に行われているか</li> <li>・財務情報公開の体制整備はできているか</li> </ul>    |
| (9)法令等の遵守     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか</li> <li>・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか</li> <li>・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか</li> <li>・自己評価結果を公開しているか</li> </ul> |
| (10)社会貢献・地域貢献 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか</li> <li>・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか</li> <li>・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか</li> </ul>      |
| (11)国際交流      |                                                                                                                                                                                |

※(10)及び(11)については任意記載。

### (3)学校関係者評価結果の活用状況

(1)教育理念・目標について…多様な価値観を許容する現在において、「人間力の育成」に対して、一歩踏み込んだ具体的な目標が必要だと思う。→ 学科(専攻)ごとに人材育成の3つのポリシー(ディプロマポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシー)を明確にし、学生と教職員全体で共有を図り実行しました。

(2)学校運営について…教員の入れ替わりに伴う新たな組織づくりが着実に進んでいるように感じる。→ これまで学校運営に中心的な役割を果たしてきた教員の定年退職に伴い、新規職員の採用やミドルリーダーの育成に積極的に取り組んでいます。

(3)教育活動について…AI活用カリキュラムをそろそろ考えていく必要があるように思える。→ 加速度的に進むIT業界の技術革新に対応するため、企業等との連携を深めることで、実習やインターンシップ等

(4)学修成果について…変化の激しい時代に対応するためにも、キャリア形成に関する教育も今後は必要になってくると思われる。→ キャリア教育の授業だけでなく、各講義において学んでいる内容が将来どのように仕事に繋がっていくかを説明し、学生がキャリア形成について考える材料を持たせていく。

(5)学生支援について…同年代はいくつになっても同年代で、横の繋がりの強化が大分を支える力を生み出すことになると思いますので、そのあたりのイベントを考えて頂けると嬉しい。→ 学科・学年を超えて交流できるイベントを学生主導で企画し、実施していく。

(6)教育環境について…学外、地域社会での学生の学びにさらに力を入れてほしい。→ イベントへのボランティア参加やセミナーへの参加への呼びかけを積極的に行っていく。

(7)学生の受け入れ募集について…18歳人口の減少に対し、更にアピール対応が必要になると考える。→ 20以上の高等学校に対して出前形式で先生対象の学校説明会を開催するなど、各設置学科の特色及び学習内容と就職先状況等についての情報提供を丁寧に行いました。

(8)財務について…指摘事項なし。

(9)法令遵守について…指摘事項なし。

(10)社会貢献・地域貢献について…学校が持つ教育的資源を地域にフィードバックする努力を検討してほしい。→ これまでのボランティアだけでなく、大分県が主催する「体験型こども科学館O-Labo」をはじめ、各自治体や関係団体・企業等が開催する事業・行事等でのサポート活動を行う機会も増やしました。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

| 名 前   | 所 属                      | 任期                         | 種別        |
|-------|--------------------------|----------------------------|-----------|
| 凍田 和美 | 公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所 理事 | 令和6年4月1日～<br>令和8年3月31日(2年) | 企業等委員     |
| 大城 英裕 | 国立大学法人 大分大学理工学部 助教       | 令和6年4月1日～<br>令和8年3月31日(2年) | 学術機関有識者委員 |
| 後藤 雅明 | 株式会社ザイナス マネージャー          | 令和6年4月1日～<br>令和8年3月31日(2年) | 企業等委員     |
| 三浦 勉  | 株式会社アーネット                | 令和6年4月1日～<br>令和8年3月31日(2年) | 企業等委員     |
| 新名 康行 | アンプリファイ                  | 令和6年4月1日～<br>令和8年3月31日(2年) | 卒業生       |
| 宮澤 英夫 |                          | 令和6年4月1日～<br>令和8年3月31日(2年) | PTA       |

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: [https://www.ivy.ac.jp/?page\\_id=1194](https://www.ivy.ac.jp/?page_id=1194)

公表時期: 令和7年6月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校に対して連携を行う企業、関係者に対し、本校に対する深い理解を得てもらうことで連携を円滑にすることができ、それにより連携を進め、活動の充実や教育内容の向上を図る必要がある。

そのため、当校は連携する企業に対し、教育目標や計画などの方針をはじめ、教育対象となる生徒・カリキュラム、教育環境や経営情報などの情報を公開し、もって企業との相互理解を深める。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの項目          | 学校が設定する項目                                      |
|--------------------|------------------------------------------------|
| (1) 学校の概要、目標及び計画   | 学校概要(校長名・所在地・連絡先・沿革)、学校の教育理念・特色                |
| (2) 各学科等の教育        | 定員数、カリキュラム、卒業・進級要件、成績評価の基準、資格取得実績<br>主な就職先・就職率 |
| (3) 教職員            | 教職員数、組織図                                       |
| (4) キャリア教育・実践的職業教育 | 演習・実習への企業との連携方針、就職支援等への取組支援                    |
| (5) 様々な教育活動・教育環境   | 教育環境、学校行事、課外活動                                 |
| (6) 学生の生活支援        | 学生支援体制、スクールカウンセラー、キャリアコンサルタント                  |
| (7) 学生納付金・修学支援     | 学生納付金、奨学金                                      |
| (8) 学校の財務          | 資金収支計算書                                        |
| (9) 学校評価           | 自己評価・学校関係者評価の結果                                |
| (10) 国際連携の状況       |                                                |
| (11) その他           | 学則                                             |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: [https://www.ivy.ac.jp/?page\\_id=1194](https://www.ivy.ac.jp/?page_id=1194)

公表時期: 令和7年6月1日